

愛する飯舘村を還せプロジェクト“負けねど飯舘!!”活動紹介

飯舘村では福島第一原発の事故に起因する放射能という「見えない津波」によって、今なお多くの命・生活・未来が脅かされています。このことに対して私たちは声をあげ、尊い命を守り、美しかった頃の飯舘村を取り戻すために行動していきます。

【ホームページアドレス】 <http://space.geocities.jp/iitate0311>

1. 活動の目的と内容

すでに2011年5月15日から、乳幼児や妊婦さんのいる家庭などを対象に計画的避難が始まりましたが、必要な避難先すべてが確保されたわけではありません。また、村民が離散した後のコミュニティをどう維持していくかなどこの先も問題が山積しています。したがって、私たちの活動は時間の経過とともに変化するものだと考えていますが、活動の基本的な目的と内容は次のとおりです。

●長期にわたり子どもの命と健康を守っていくこと／村民の健康管理

- 健康管理（健康相談、定期検診、内部被ばくの測定を求める活動など）に関する活動
- 長期的な子どもの健康管理と心のケアに関する活動
- 健康手帳（被ばく手帳のようなもの）の発行にむけた活動 など

●補償・賠償のため、また飯舘村が忘れられないよう、声をあげ続けていくこと

- 子どもたちに未来を託すために必要な補償を求める運動
- 美しかった頃の飯舘村の返還を求める運動
- 弁護士など専門家を招いての法律相談や勉強会の開催 など

●村民がもとの飯舘村に戻るまでの心の拠り所としての存在となること

- 離散した村民どうしのコミュニティを維持していくための取組
- 村内の除染や土壌改良のための試験的取組への協力
- 行政や関係団体等との連絡調整、村内外からの情報収集・発信 など

2. これまでの活動の経緯（HP開設前後まで）

3月中旬～現在：佐藤健太（パンダP）がツイッターで飯舘村の窮状を訴える

国内外の賛同者から子どもの避難受入や各種支援協力の申し出が相次ぐ
こうした情報を村民への口コミとツイッターを中心に情報発信

4月21～22日：若手有志が振津かつみ先生を招き被ばくに関する相談会を開催

4月26日：村民決起集会の開催

（この間、子どもと村民の健康、補償・賠償、帰村に向けた取組等の方針と分担を確認）

5月16日：ドイツから視察団の受け入れ（従来数回にわたり村外の協力者等を案内）

5月19日：ホームページの開設

5月22日：活動分野別の行動計画の突き合わせ（予定）

5月25日：全村避難前の村民の集いを開催（予定）

愛する飯舘村を還せプロジェクト「負けねど飯舘!!」 活動支援金ご協力のお願い

これまで「子どもたちのために」と、皆さまからお預かりしている支援金は、避難（計画的避難の早期完了）や健康管理を含め、未来ある子どもたちを守るための活動に大切に使用させていただきます。

今後計画的避難が進むにつれて、私たちは、子どもをはじめ村民の長期的な健康管理、補償対策、村の環境改善など、役場と協力しながら主として次のような活動を進めていきます。

- 健康管理（健康相談、定期検診、内部被ばくの測定を求める活動など）に関する活動
- 長期的な子どもの健康管理と心のケアに関する活動
- 健康手帳（被ばく手帳のようなもの）の発行にむけた活動
- 役場だけでは対応が困難な二次避難や就業に関する情報収集・提供
- 子どもたちに未来を託すために必要な補償を求める運動
- 美しかった頃の飯舘村の返還を求める運動
- 弁護士など専門家を招いての法律相談や勉強会の開催
- 村内の除染や土壌改良のための試験的取組への協力
- 離散した村民どうしのコミュニティを維持していくための取組
- 行政や関係団体等との連絡調整、村内外からの情報収集・発信

私たちの活動は、今回の計画的避難の終了をもって完了するのではなく、汚染される前の飯舘村に戻る日まで継続していくべきものだと考えています。そのため、上述した活動を含め、これからの長期にわたる活動を継続していくために、皆さまから活動支援金を賜りたくお願い申し上げます。

なお、今後の活動内容と活動支援金の使途等については、ホームページ（※）を通じて随時報告させていただきます。

※ホームページアドレス <http://space.geocities.jp/iitate0311>

この趣旨に賛同して頂ける方は、下記の「まげねどいいたて（負けねど飯舘）」の口座にお振り込みを頂けると幸甚です。

愛する飯舘村を還せプロジェクト
「負けねど飯舘!!」活動支援金 振込先口座

あぶくま信用金庫 飯舘支店 普通 0119414
「まげねどいいたて 代表 大井利裕（おおいとしひろ）」

email : iitate0311@yahoo.co.jp

ホールボディカウンターによる体内放射能測定に関する要望書

福島原子力発電所事故対策統合本部
本部長 内閣総理大臣 菅直人 様

東日本大震災及び福島第一原発事故の災害対策へのご尽力に、心から敬意を表します。

ご承知のとおり、この度の大震災により福島第一原発は深刻な損傷を受けました。炉心溶融と水素爆発等に伴い、チェルノブイリ原発事故の10分の1にも相当する量の放射性物質がすでに放出され、国際的な評価尺度でも「レベル7」の重大事故であることが公に確認されています。そして事故を起こした複数の原発は、未だに事態の収束メドが立たない事態に陥っております。

私たちの住む飯館村は、この度の原発事故による放射性物質の放出のために高濃度に汚染され、「計画的避難区域」（外部被曝だけでも「事故発生から1年の期間内に積算線量が20ミリシーベルトに達するおそれのある区域」）に指定されました。私たち村民のほとんどが、子どもたちも含め「放射能の雲」が村に流れてきた3月15日には、空間線量率が40マイクロシーベルト/時に達したことも知らないまま、マスクなどの防護もせずに屋外での活動を続けておりました。大人たちは他の地区からの避難者の受け入れに奔走していました。その後も、飯館村には国から「屋内退避」の指示が出されることもなく二ヶ月が過ぎました。

このような中で、私たち村民は地上に降った放射性物質からのガンマ線による外部被曝だけでなく、この二ヶ月の間の呼吸や飲食によって体内に取り込まれた放射性物質による内部被曝の両方による被曝をしていると考えます。外部被曝については、公表されているモニタリングの空間線量や村や個人が所有する線量計での測定値から、ある程度推定することも可能です。しかし、内部被曝については村や個人の努力では測定も評価もできません。私たち村民、とりわけ放射線に対する感受性の高い子どもたちが、この二ヶ月間に受けた体内被曝量が、事実として、いかほどであるかを正しく測定し、評価し、記録しておくことは、今後の私たち村民の健康管理にとって必要不可欠だと考えます。また、チェルノブイリ原発事故によるベラルーシ共和国の汚染地域では、飯館村の汚染レベルよりも低いレベル（37,000ベクレル/平方メートル以上）の汚染地域でも、政府の政策として、地区の中央病院に設置されたホールボディカウンターで、毎年の検診時に、住民の体内放射性物質（セシウム137）の測定が行われ、住民への健康・生活指導がなされていると聞いております。

以上のような趣旨から、飯館村の村民に対してホールボディカウンターによる測定を行うことをお願い致します。また、その際には測定結果（核種と量）を正確に記載した記録を本人に手渡して被曝評価などの説明が必ずなされるようお願い致します。

事故後二ヶ月が経過した今では、ヨウ素131など、半減期の短い核種については、すでに測定できないだろうとのことは承知しております。しかし、比較的（物理学的）半減期の長いセシウム134（2.5年）とセシウム137（30年）は、生物学的半減期（大人：50-150日、子ども：44日）を考慮してもまだ測定可能です。特に避難が始まるまでのこの二ヶ月間の内部被曝を評価するには早急に測定を行う必要があると考えます。

この要望へのご回答は、一週間以内に下記に文書にて送付下さいますようお願い致します。

2011年5月17日

愛する飯館村を還せプロジェクト「負けねど飯館！」（仮）
代表常任理事 大井利裕
連絡先 愛澤卓見
住所：福島県相馬郡飯館村飯樋字笠石25
電話：090-9633-4149
Fax：0244-43-2807

ホールボディカウンターによる体内放射能測定に関する要望書

福島県知事 佐藤 雄平 様

東日本大震災及び福島第一原発事故の災害対策へのご尽力に、心から敬意を表します。

ご承知のとおり、この度の大震災により福島第一原発は深刻な損傷を受けました。炉心溶融と水素爆発等に伴い、チェルノブイリ原発事故の10分の1にも相当する量の放射性物質がすでに放出され、国際的な評価尺度でも「レベル7」の重大事故であることが公に確認されています。そして事故を起こした複数の原発は、未だに事態の収束メドが立たない事態に陥っております。

私たちの住む飯館村は、この度の原発事故による放射性物質の放出のために高濃度に汚染され、「計画的避難区域」（外部被曝だけでも「事故発生から1年の期間内に積算線量が20ミリシーベルトに達するおそれのある区域」）に指定されました。私たち村民のほとんどが、子どもたちも含め「放射能の雲」が村に流れてきた3月15日には、空間線量率が40マイクロシーベルト/時に達したことも知らないまま、マスクなどの防護もせずに屋外での活動を続けておりました。大人たちは他の地区からの避難者の受け入れに奔走していました。その後も、飯館村には国から「屋内退避」の指示が出されることもなく二ヶ月が過ぎました。

このような中で、私たち村民は地上に降った放射性物質からのガンマ線による外部被曝だけでなく、この二ヶ月の間の呼吸や飲食によって体内に取り込まれた放射性物質による内部被曝の両方による被曝をしていると考えます。外部被曝については、公表されているモニタリングの空間線量や村や個人が所有する線量計での測定値から、ある程度推定することも可能です。しかし、内部被曝については村や個人の努力では測定も評価もできません。私たち村民、とりわけ放射線に対する感受性の高い子どもたちが、この二ヶ月間に受けた体内被曝量が、事実として、いかほどであるかを正しく測定し、評価し、記録しておくことは、今後の私たち村民の健康管理にとって必要不可欠だと考えます。また、チェルノブイリ原発事故によるベラルーシ共和国の汚染地域では、飯館村の汚染レベルよりも低いレベル（37,000ベクレル/平方メートル以上）の汚染地域でも、政府の政策として、地区の中央病院に設置されたホールボディカウンターで、毎年の検診時に、住民の体内放射性物質（セシウム137）の測定が行われ、住民への健康・生活指導がなされていると聞いております。

以上のような趣旨から、飯館村の村民が放射性物質の体内沈着の測定を希望して福島県立医科大学附属病院を受診した場合には、当施設に設置されているホールボディカウンターによる測定を行うよう、県としても指導、指示を行うようお願い致します。また、その際には測定結果（核種と量）を正確に記載した記録を本人に手渡して、被曝評価などの説明が必ずなされるようご指導下さい。

事故後二ヶ月が経過した今では、ヨウ素131など、半減期の短い核種については、すでに測定できないだろうとのことは承知しております。しかし、比較的（物理学的）半減期の長いセシウム134（2.5年）とセシウム137（30年）は、生物学的半減期（大人：50-150日、子ども：44日）を考慮してもまだ測定可能です。特に避難が始まるまでのこの二ヶ月間の内部被曝を評価するには、早急に測定を行う必要があると考えます。福島県立医大附属病院が、原発立地県の県立医大として、緊急被曝医療機関の役割を果たすということからも、このような私たち福島県民の要望に応えることは当然の任務と考えます。

知事におかれましては、上記の件につき迅速に対処して下さいを強く望みます。

この要望へのご回答は、一週間以内に下記に文書にて送付下さいますようお願い致します。

2011年5月17日

愛する飯館村を還せプロジェクト「負けねど飯館！」（仮）
代表常任理事 大井利裕
連絡先 愛澤卓見
住所：福島県相馬郡飯館村飯樋字笠石25
電話：090-9633-4149
Fax：0244-43-2807

ホールボディカウンターによる体内放射能測定に関する要望書

福島県立医科大学学長 菊地 臣一 様
福島県立医科大学附属病院長 村川 雅洋 様

東日本大震災後、震災被災者の治療にご尽力されてこられた貴大学及び附属病院の皆様方には心から感謝申し上げます。

ご承知のとおり、この度の大震災により福島第一原発は深刻な損傷を受けました。炉心溶融と水素爆発等に伴い、チェルノブイリ原発事故の10分の1にも相当する量の放射性物質がすでに放出され国際的な評価尺度でも「レベル7」の重大事故であることが公に確認されています。そして事故を起こした複数の原発は未だに事態の収束メドが立たない事態に陥っております。

私たちの住む飯舘村は、この度の原発事故による放射性物質の放出のために高濃度に汚染され「計画的避難区域」（外部被曝だけでも「事故発生から1年の期間内に積算線量が20ミリシーベルトに達するおそれのある区域」）に指定されました。私たち村民のほとんどが、子どもたちも含め「放射能の雲」が村に流れてきた3月15日には、空間線量率が40マイクロシーベルト/時に達したことも知らないまま、マスクなどの防護もせずに屋外での活動を続けておりました。大人たちは他の地区からの避難者の受け入れに奔走しておりました。その後も、飯舘村には国から「屋内退避」の指示が出されることもなく二ヶ月が過ぎました。

このような中で、私たち村民は地上に降った放射性物質からのガンマ線による外部被曝だけでなく、この二ヶ月の間の呼吸や飲食によって体内に取り込まれた放射性物質による内部被曝の両方による被曝をしていると考えます。外部被曝については公表されているモニタリングの空間線量や村や個人が所有する線量計での測定値から、ある程度推定することも可能です。しかし、内部被曝については村や個人の努力では測定も評価もできません。私たち村民、とりわけ放射線に対する感受性の高い子どもたちが、この二ヶ月間に受けた体内被曝量が、事実として、いかほどであるかを正しく測定し、評価し、記録しておくことは、今後の私たち村民の健康管理にとって必要不可欠だと考えます。また、チェルノブイリ原発事故によるベラルーシ共和国の汚染地域では、飯舘村の汚染レベルよりも低いレベル（37,000ベクレル/平方メートル以上）の汚染地域でも、地区の中央病院に設置されたホールボディカウンターで、毎年の検診時に、住民の体内放射性物質（セシウム137）の測定が行われ、住民への健康・生活指導がなされていると聞いております。

以上のような趣旨から、飯舘村の村民が放射性物質の体内沈着の測定を希望して貴大学附属病院を受診した場合には、貴院に設置されているホールボディカウンターによる測定を行って下さるようお願い致します。また、その際には測定結果（核種と量）を正確に記載した記録を本人に手渡して、被曝評価などをご説明下さるようお願い致します。

事故後二ヶ月が経過した今では、ヨウ素131など、半減期の短い核種については、すでに測定できないだろうとのことは承知しております。しかし、比較的（物理学的）半減期の長いセシウム134（2.5年）とセシウム137（30年）は、生物学的半減期（大人：50-150日、子ども：44日）を考慮してもまだ測定可能です。特に避難が始まるまでのこの二ヶ月間の内部被曝を評価するには、早急に測定を行う必要があると考えます。

貴大学及び附属病院が、緊急被曝医療機関として、私たち福島県民の要望に応じて、迅速に対処して下さることを強く望みます。この要望へのご回答は、一週間以内に下記に文書にて送付下さいますようお願い致します。

2011年5月17日

愛する飯舘村を還せプロジェクト「負けねど飯舘！」（仮）
代表常任理事 大井利裕
連絡先 愛澤卓見
住所：福島県相馬郡飯舘村飯樋字笠石25
電話：090-9633-4149
Fax：0244-43-2807

決 議 文

春の訪れを感じる木々の芽吹き・花々の開花・・・いつもなら田植えの準備に勤しむ季節のはずでした。

私たちの飯舘村は地震の影響は沿岸部に比べれば少なく、本来ならば地震後すぐに近隣の市町村へ駆けつけ、被災した人達の支援に向っているはずでした。

しかし、私たちの愛する飯舘村には、忘れもしない去る平成23年3月11日の大震災と、その津波に起因する福島第一原子力発電所の事故により、信じられないほどの放射性物質が降り注ぎ、祖先が、私たちが心血を注いで大切にしてきた大地が汚染されてしまいました。

あの大震災から1ヶ月半・・・今も放射能の恐怖に曝されています。

そして今、怒り、憤り、不安、戸惑い、悩み・・・様々な言いようのない思いが私たちの胸にこみ上げています。

私たちは奇しくもこのような事態になって、あらためてこの村と、この村に生きて来た意義を深く見つめ直しています。

緑々と広がる牧草地、青く突き抜けるような空、一斉に咲き乱れる花々、黄金色に輝く稲穂、満天に瞬く星空・・・・その景色をもう一度大切な人たちと眺めたい、そして今まで通り子供たちの笑い声のする登校風景、おじいちゃんやおばあちゃんの笑顔をこの飯舘村で見たいのです！

その日を迎えることを、再び飯舘村の土の上で子供たちが走り回れるために、彼らに未来を託すことが出来るように、以下のことを決議します。

私たちは国と東京電力に対して

- 一、原発事故の一刻も早い収束を求めます。**
- 一、迅速な計画的避難の完了を求めます。**
- 一、私たちが暮らしてきた飯舘村の返還を求めます。**
- 一、私たちの愛郷心を維持し子ども達に未来を託すための必要な補償を求めます。**

平成23年 4月26日

村民決起集会に集う仲間一同